

平成 26 年度

学校経営方針

京都市立待鳳小学校
校長 中野 洋

創立 140 年の本校の伝統と校風を受け継ぎ、未来に生きる子どもたちのために、望ましい教育を進めることで、複雑に変化する社会で生き抜く力を育成したい。

そのためにも、教職員が一体となって英知と熱意を結集し、充実した教育活動を展開しなければならない。また、教職員一人一人が自己啓発・相互啓発に努めるとともに、明確な目標と計画に基づいた質の高い教育活動を推進することが大切である。

京都市が掲げている「一人一人を徹底的に大切にする」という精神を根底に置き、「すべては子どものために」という熱い思いをもち教育実践に取り組む。

教育理念

1. すべての教育活動を通して、**人間尊重・人権尊重の精神**の高揚を図り、人間愛に満たされた情操豊かな児童の育成を期す。
2. 児童の達成体験を重視し、**自己実現**のために心を燃やして、自ら課題を見つけ主体的にその解明にチャレンジする追求力のある児童の育成を目指す・
3. 全ての教育活動の場において、意図的・計画的・継続的に道徳的な信条、判断力、実践力を培う指導を推進し、**豊かな心の育成**を図る。
4. 児童の安全管理に万全を期すとともに、全教育課程を通して、体位・体力の向上を図り、健康で安全な生活を営むために必要な能力・態度を育てる。また、「**学校は学びの場であり安心して生活できる場**」であるように教育設備・教育環境の充実に努める。
5. カウセリング・マインドを基盤として児童理解に努め、教師と児童との心のふれ合いを通して、問題行動や事故の未然の防止、**基本的生活習慣の形成**等、生活指導の徹底を図る。
6. 明確な目標設定、地域や児童の実態をふまえ、地域の教育資源の活用を考慮した指導計画の充実、学習環境・教材・教具の整備、指導課程における評価の充実等を通して、一人一人の児童の確かな学習の成立を図る。
7. 子どもの力を最大限伸ばす努力をする。(持っている力を值切らない) そのために、つねに子どもに寄り添い、もう一步踏み込んだ指導をする。
8. 一人一人の教職員の特性と創意を生かし、特色ある学年・学級経営の推進に努めるとともに教職員相互の共通理解を図り、組織運営上の協力体制を確立する。

9. 教職の専門性を高め、指導の向上を期するため、校内研究・研修の充実を図る。
10. 家庭・地域社会・関係諸機関とのコミュニケーションを密にして、相互理解を深め、児童の健全育成のための協力体制を築く。

当面する課題

1. 学力格差を無くし、学力低位の児童の学力向上を図る。
2. 主体的に学習に取り組む子の育成
3. 教材の開発、授業の創造を積極的に行い、授業力の向上を目指す。
4. 自律と自立を目指し、子どもの主体的な生活の基礎を作る。
5. 子どもをしっかりと見据えた校内研究の推進
6. 児童理解をふまえた生活指導の充実
7. 安全管理・安全指導の徹底
8. 地域から学び地域へ働きかける教育活動の推進

学校経営方針

一人一人の子どもが輝く学校
全教職員がやりがいのある学校
家庭・地域とともにつくる学校

学校教育目標

めあてを持ち、自ら考え行動する子の育成
－未来を切り拓き、自己実現を目指す教育の展開－

めざす子ども像

- | | | |
|----------------|-------------|---------------|
| ・ 学ぶ子 | 確かな学力をつける | 研究委員会 学力向上委員会 |
| ・ やさしい子 | 心豊かな子を育てる | 人権教育委員会 |
| ・ 元気な子 | 健やかな体をつくる | 健康安全委員会 |
| ・ つながる子 | 人とつながる力をつける | 生徒指導委員会 |

「知・徳・体」バランスの取れた子どもの育成

めざす教職員像

想像力と創造力、そして実践力がある教職員

子どもたちの夢を実現するための教育をする
創造的な教育を展開する
助け合い高め合う教職員
ぱっと動く、みんなで動く

めざす学校像

子どもを育てる具体的な取組がある学校

取組がないところに成果はない

地域・PTAの統一スローガン

すべては待鳳の子どものために

取組の重点

- 確かな学力をつけるために
授業改善を行い、すべての児童の学力を高める。
- 豊かな心を育てるために
体験活動を通し、協力し高め合える「なかま」づくりを推進する。
- 健やかな体を育てるために
生活を振り返り、自らの健康を大切にする教育を推進する。

具体的な教育実践

- ① 学年経営を基盤とする学級経営の充実

- ② 指導法の改善・工夫
 - ・教材の開発、資料の作成など「楽しく分かる授業」の創造を目指す
 - ・T.T指導、専科指導、交換授業を有効に活用する。
- ③ 授業の質的改善
 - ・基礎・基本の徹底指導
 - ・個に応じた指導（授業の中で、家庭学習で）
 - ・新学習指導要領に沿った授業
 - ・ＩＣＴ機器やデジタルコンテンツの活用
 - ・「データベース」の有効活用
- ④ 「待鳳スタンダード」に沿った授業の展開と確かめ
- ⑤ 道徳的心情の涵養
 - ・道徳の授業の改善を図り、子どもの道徳性を高める。
 - ・道徳と各教科・領域を関連させ、総合単元的な道徳を推進する。
- ⑥ 体験活動を軸に、学ぶ喜びを味わえる教育活動を推進する。
 - ・「自然・なかま・規律」をめあてにした自然体験活動の推進
 - ・福祉・勤労体験の充実を図る。
- ⑦ 規範意識を培う。
 - ・「待鳳小学校のきまり」を基にした生活の確立
 - ・人ととのつながりを大事にし、きまりやルールを守ることの大切さを実感させる。
 - ・「あいさつ」「掃除」「感謝」の徹底
- ⑧ 課外学習の有効活用
 - ・放課後や長期休業中の学習会の実施
 - ・帶時間の活用「朝の読書」「計算タイム」
 - ・土曜学習の展開
- ⑨ 家庭学習の充実
 - ・学習を中心とした生活リズムの確立
 - ・家庭との連絡を密にし、学校での学習との連動を図る。

- ⑩ 社会の動きに敏感に、社会に対応できる人間づくり
 - ・キャリア教育の推進（キャリア教育スタンダードの活用）
 - ・スクーデントシティ学習、ものづくりの殿堂工房学習の取組
- ⑪ 新たな教育課題・教育問題に対する取組
 - ・「環境教育スタンダード」をもとにした環境教育の授業の推進
 - ・「自転車教室」4年、「携帯教室」5年、「非行防止教室」「行政相談教室」6年の取組
- ⑫ 地域を巻き込んだ教育の推進
 - ・ゲストティーチャーの有効活用
 - ・「学校運営協議会」との連携・協働を積極的に推進する。

平成26年度 重点項目について

全ての学校で一致して取り組むべきこと

○つけたい力を明確にした「言語活動」

○自立心と責任感の育成を目指した「協働活動」

全ての取組を通して、上記重点項目の指導を行うが、とりわけ次の取組に焦点をあて教育活動を推進する。

つけたい力を明確にした「言語活動」をすすめるために

- ・ことばの力につけるための研究活動
- ・学力向上を目指す取組の中で、言語を取り巻く指導の充実を図る
　　読書指導、漢字の学習など

自立心と責任感の育成を目指した「協働活動」をすすめるために

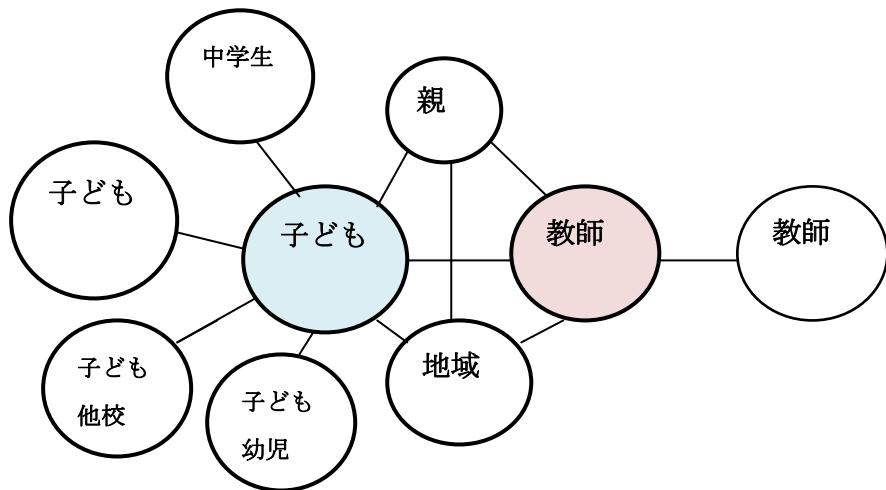
- ・基本的生活習慣の形成を図る取組
- ・規律や自尊意識を高める取組
- ・体験活動を通して望ましい人間関係の育成を図る

☞今年のキーワードは「つながり」です。

これから社会を生き抜くために必要な力は、

- ① 社会では多様な価値観や考え方をもっている人々が共生していることの理解
- ② 他者や社会の考え方や価値観を受けいれる力
- ③ 他者や社会に対して能動的に働きかける力
- ④ 実社会で生きる思考力、判断力、表現力

「つながり」を大事にし、上記の力をつけていく。



様々な「つながり」がより良いものであれば、「生きる力」の育成に必ずよい結果をもたらす。

例えば

教職員のつながりを考えると、

教職員の動きは流動的。教職員同士のつながり方は整然としたものではなく、かといって分断されたものでもない。自立した教職員が多方向に、いろいろな細い糸で緩やかにつながっている。(ウェブ型)

その中で

子どもを中心にする
ことで
「つながり」を強め広げる。

何でも相談できる雰囲気
ほっとできる雰囲気
必要なときに必要なことを
すぐに話す

そんな場が必要です。

●人ととのつながりだけでなく、あらゆることに「つながり」を意識した取組実践を行う。学年の系統性、単元のつながり、日々の取組・・・

鳳の教え

- た** たゆまぬ努力をする子
- い** 生き生きと自分を表現する子
- ほ** ほがらかな笑顔をたやさぬ子
- う** うつくしい心を育てる子

校訓

「至誠」